



いつもの患者さんを知っているからこそ、 異変を察知、とっさの救急車要請に

京都府北部にあるゆう薬局の薬剤師Uさんは薬剤師歴16年。ゆう薬局では8年目になります。

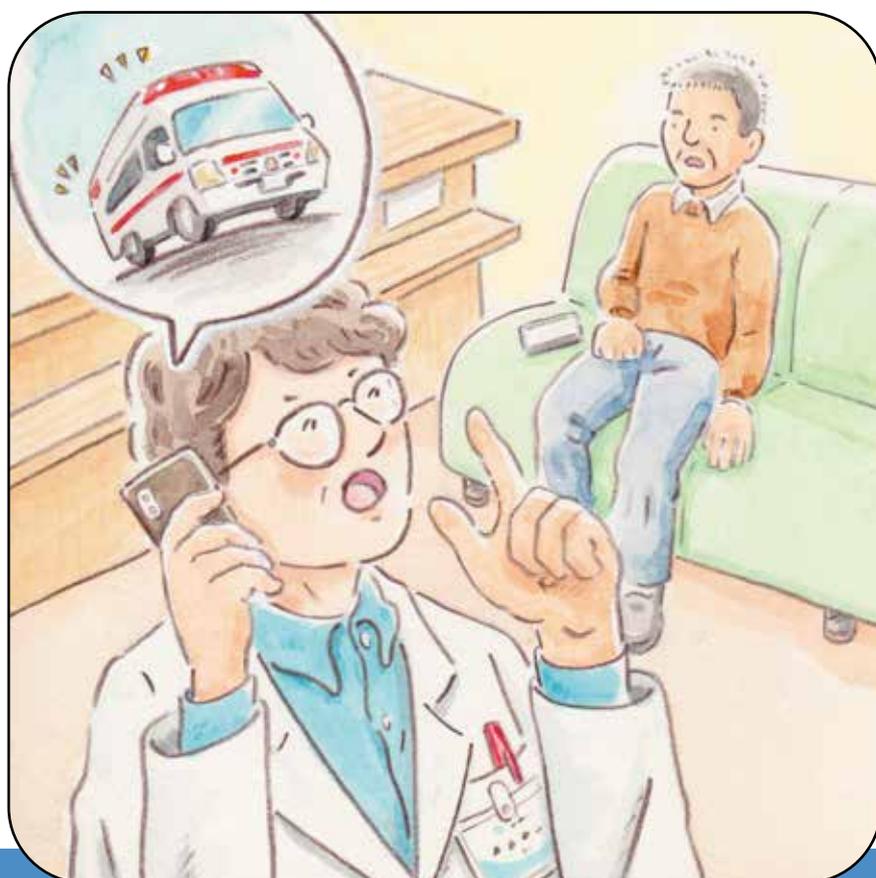
「患者さんにとって薬局は医療の最初の窓口。頼りにされているのを実感します」とUさん。最近もこんな出来事がありました。眼科に通う70代の柳さん(仮)。娘さんが「父は頑固でひねくれ者」と評する患者さんです。でもUさんはいつも柳さんの話を親身に聞き、健康についての質問や相談を受けていました。

ある日、柳さんが窓口に来て話そうとしますが、あまりにも要領を得ません。顔を見ると、いつもとは表情が異なり、片手もだらんと力が入っていない様子です。「この症状は脳梗塞かもしれない!」。とっさにそう判断したUさんは、柳さんを椅子に座らせて119番で救急車を要請。動揺しながらも、「落ち着け、ここは薬局だ。医療従事者として医師にわかるよう、柳さんの薬歴を用意するんだ」と、自分に言い聞かせ、素早く薬歴を確認すると、柳さんは

過去に降圧剤が処方されていたことがわかりました。高血圧も脳梗塞につながる要因のひとつです。Uさんはその薬歴をメモし、また他の患者さんには「今から救急車が来ます」と車の移動をお願いして、駐車スペースを確保。幸い救急車はすぐに来て、柳さんは病院へ運ばれていきました。

その夜、娘さんが薬局にお礼を言いに来てくれました。Uさんの見立て通りの脳梗塞で「すぐに救急車を呼んでくれて助かりました」と感謝しきりだったとのこと。Uさんは、安堵とともに感無量になりました。同じ薬剤師の同僚からも「普段から患者さんの状態を把握しているからできる、勇気ある対応」と感心されたUさん。「人口が少ない地域では、病院への距離が遠くなりがちです。患者さんの身近にある医療機関として役に立てたことがうれしいですね」。

気軽に健康状態の話ができる。地域の人のために、薬局が安心できる相談所でありたいと、今日もゆう薬局の薬剤師は患者さん一人ひとりに向き合っているのです。



豆知識



薬剤師と薬歴

病院でのカルテ同様、薬局では薬剤服用歴(薬歴)について、患者さんとの会話での薬剤師の判断や説明内容を、毎回記録しています。患者さん来訪の際には必ず確認し、変化に気づけるようにしています。

ゆう薬局グループ本部・宇野薬局

☎075-771-1690(本部)
 ●京都市左京区浄土寺下馬場町106

もよりバス停は「錦林車庫前」